

プノンペン経済特別区 プロジェクトレポート — プロジェクトマネジメント方式による国際貢献 —

民間ゼネコン、公共開発機関等を歴任後、何か単なる利益追求だけない、また決まった予算の割り振りでもない、海外でその国の発展に貢献する大きな都市開発プロジェクトを経験したいと考え、経済特別区に関しては官民の中でも経験実績とも世界のトップレベルにある JDI の門をたたいたのが、私が当プロジェクトに参加したきっかけでした。PPSEZ（プノンペン経済特別区）において Chief Engineer（統括エンジニア）として技術統括を担当させていただきました。以下、プロジェクトを遂行したエピソードを紹介します。

1. 国際チーム編成によるプロジェクトマネジメント

PPSEZ は、カンボジア首都プノンペンに近く、開発区域内に都市ゾーン、産業ゾーン、さらにリゾートゾーンを備え、なおかつカンボジアで初となる国際標準の発電所、上下水プラント、インターネット、通関の機能を備えたドライポート等の高度なインフラを備えた都市型の経済特別区で通常の工業団地と全く異なる新しいコンパクトシティを形成します。JDI が中心となり長年かけて構想し実現したプロジェクトで、私はコンセプトデザイン、詳細設計、国際入札、施工管理の全てを統括させて頂きました。官民を含む多くの国際協力コンサルタントのプロジェクトは調査のみに終わるケースが大部分を占めますが、JDI はプロジェクトの性格や特長を的確に把握し、現地に精通した国際エンジニアリング企業とチームを編成し、プロジェクトを実施に移します。PPSEZ のエンジニアリング詳細設計及び施工管理は JDI が、洪水対策ダイク（堤防）設計の実績のあるタイのトップエンジニアリング企業である AEC(Asian Engineering Consultant Ltd)及びカンボジアの優秀な若いエンジニアと国際チームを編成し、日夜激論を交わし完成までこぎつけました。

写真：JDI/AEC の現場乗り込み時現地ミーティング



2. 設計時のエピソード

現地乗り込み時、現地には測量の公共基準点は存在するものの誤差が多く、また雨量のデータも十分でないため雨季の洪水高さを如何に設定するかで、チーム内で夜を徹して激論を交わしました。カンボジアのエンジニアと激流の中、近隣橋脚全ての洪水痕跡を測量調査したり、新聞社で洪水に関する記事を検索したり、村の長老からヒアリングしたりと、今から考えるとスリル万点でした。

写真：建設予定地周辺の洪水時状況



写真：周辺橋脚水位調査



3. 施工時のエピソード

施工段階に入ると、コントラクターはゼネコンを抜き、工種ごとに優秀なコントラクターを個別に採用し、我々コンサルタントが CM(Construction Management)業務をオーナー側と施工者側にとって中立的なコンサルティングエンジニアとして工事を遂行しました。通常の公共事業の場合、構想、設計、入札、施工の分岐期期間に比較的長時間を要しますが、当プロジェクトではプロジェクトマネジメント方式によりこれらの分岐所要時間を大幅に削減し、プロジェクトに一貫性を持たせ、同クラスの大型プロジェクトに通常要求される工程および費用を大幅に抑えています。施工時に一番苦勞したのは、雨季の集中豪雨時に施工しなければならない下水管設置方法でした。これについてもでチーム内で激論を交わし、マンホール構造を途中で変更し問題を解決しました。日々の打ち合わせは、真剣勝負そのものです。決めた事項には必ずサインを交わし、実行されていない場合には厳しく追及し、次の打開策を見出してきました。

写真：工事現場の路床試験打ち合わせ状況



4. プロジェクトを支えた技術者達

コンサルタント、コントラクターのエンジニアの国籍は、日本、タイ、カンボジア、中国、シンガポール、マレーシア、インドと多彩です。現場で彼らと汗まみれになり、時には衝突、そして解決の繰り返しでした。問題は施工者のみならず、オーナーとの間でも生じます。土地利用設計に関し、オーナーにプロフィットを確保すると同時に社会への貢献をも最大限引き出すように、多々葛藤しました。民間出資者及び公共への一体的な還元がなければ真の民活プロジェクトとは言えません。プロジェクトの途中で「こんなものはできるはずがない。不可能だ。」と言って多くの者が去っていきました。しかし、最後まで私とともに現場に残り、プロジェクトを敢行したのは、カンボジア国民のために新しい都市を造ろうという高い目的を持った技術者たちです。彼らとは、国籍、思想、言語を超えた信頼感が生まれ、今後の交流を誓い合っています。最後に、私にこのような大型国際都市開発プロジェクトの技術統括を担当する機会をくださった JDI に感謝いたします。

写真：週間工事打ち合わせ。(CM方式によるマネジメント)



5. PPSEZ のオープニングにあたり

PPSEZは、2008年1月に工事はおおむね完成し、4月30日に正式にオープニングを迎えることができました。開発構想から2年足らずという短期間でのスムーズな開発行程もさることながら、カンボジアにあって近年の民間投資事業として最大級の総工費120億円にもなる工業団地開発を成功裏に運ぶことができたのも、現地ならびに関係各位の多大なる協力によるところがあると思います。この場をお借りして感謝の意を称したいと思います。

(参考：PPSEZ：<http://www.ppsez.com/>)

